

全体交流会・パネルディスカッション報告

- ◎コーディネーター 朝廣 佳子 ((株)読売奈良ライフ代表取締役社長兼編集長)
◎パネリスト 大谷 新太郎 (阪南大学准教授)
横山 葵 (NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長)
田端 和彦 (兵庫大学教授)

朝廣氏

皆様お疲れ様でした。まず各分科会で発表されたことのご感想、まとめを各座長の方々にお話しいただきます。その後ある程度のテーマがあればそこについて議論したいと思います。では観光交流分科会を担当された大谷先生をお願いします。



大谷氏

今回5つの発表をしていただきました。観光という言葉にこだわらず、人が行き来することに注目して様々な活動されている方々の発表なのですが、まず西播磨なぎさ回廊づくり連絡会の方々に発表いただきました。これは西播磨の5つのウォーターフロントを回廊と結びつけ取り組みをされている事例でした。25名の活動でいろいろな活動を紹介いただきました。まず牡蠣祭りやモニターツアーなどお聞きしました。海の茶舎や地域食材のお話もいただきました。そして地域の子もたちをよんで、環境学習もされている。いろいろな事例をお話しいただいたのですが、すでに成果もあげられているのですが、例えば地域への入れ込み客数や旅館、ホテルの宿泊数に具体的な成果が出ていなくて、特に情報発信、また支援助成をどこから受けるかといった問題を抱えておられました。インターネットでの情報発信もはじめら

れているのですが、これからより力を入れたいというお話でした。

次にいえしまコンシェルジュさんですが、発表いただいた方が大阪から移住された方で、余所者が地域活性に参加されている事例です。いえしまは姫路からフェリーで移動した場所ですが、いろいろな資源があるのですが、それを案内する役割をされている方です。島の人たちが日常だと思っていることが実は非日常でそれが観光資源になっているのだという観点から地域の魅力を伝えるという活動を精力的にされています。また、空家をゲストハウスにして滞在型の観光に繋げていきたいということでした。

それから、まちなか運営協議会さんの発表ですが、今日の手づくり郷土賞授賞式でもお話がありました「やなせ宿」の活動です。観光交流施設と位置づけられた施設を舞台にして、食や祭りといったものをテーマに事業をされています。ワンディレストランというものがあって、地元の方々が調理師免許を持たなくても食事を出せる、あるいはチャレンジショップ的なものに使われているという事例であるとか、様々な体験学習ができるプログラムであるとか、そこに地元の方が講師として参加されたりしています。こういった地域の資源をそこに集めて、表現する場としてやなせ宿



が使われているというご報告をいただきました。

次に歌とピクニック実行委員会さんの発表ですが、発表された方が地域のご出身の方で、故郷で何かやりたいということがきっかけで、これは地元の人であり余所者の両方の立場といったデザインをされてるという強い武器をお持ちの方なんです。デザイン性の高いマーケティング戦略も取られながら、地域の何もない森でライブをやったり、アートを展示したりヨガ教室をしたりと様々なイベントをする形で、集客に成功した事例をご紹介いただきました。そこには緻密なマーケティング戦略があり、そのあたりの戦略をお聞かせいただきました。

それから、A-yan! 関西をアートで盛り上げるNPOさんの発表ですが、お化け屋敷を子どもたちと作り上げるという活動を大阪市内で行われている事例の発表でしたが、これを大阪のエンターテイメント、観光資源としていこうという提案をされました。子どもたちが大阪市内の各地で、自分たちでプロデュースするお化け屋敷をやりながら、プロの例としてシルク・ド・ソレイユを挙げておりましたが、プロのお化け屋敷があり、これが観光資源になったらどうかというご提案をいただきましたし、実はそこで大阪の人というものがすごく強い観光資源を、他地域の方にお伝えできるのではないかというお話でした。



朝廣氏

ありがとうございました。続いて地域資源活用分科会をご担当された横山先生お願いします。

横山氏

地域資源活用部門では6つの発表をいただきました。一つは麻・藍・布という事で滋賀県の愛荘町の方からお話をいただきました。古くから愛荘町には麻を使った織物があり、近江商人は群馬県から麻を仕入れ、徳島県の藍染をやり、愛荘町

で布を加工するという仕組みの中で、近江上布を作り上げてきた歴史があります。その3つの都市を使って、それぞれのところで連携をして発信をするというプロジェクトを実施されたということです。それを契機に地域の資源を見直して観光に繋げていこうという中で、近江麻とかいろんな村芝居がみつかって、それを磨いて観光資源化に繋げていきたいというお話でした。



2つ目は、東堅町自治会文化委員会さんから報告をいただきました。自治会組織が文化的な遺産を掘り起こして、それをみんなで勉強しながら楽しんでいくというような仕組みをご紹介いただきました。基本的には町の文化を紐解き、それを勉強し、それにまつわる土地を巡ったりいろんな町の発見をしたりという活動と同時に、文化祭というプログラムを、まちをあげて取り組まれているご報告をいただきました。文化祭では、その時に合わせて町の人が絵を描いたり、いろんな行事の準備を一年かけてやっているということが、まちのコミュニティに繋がっているという話もいただきました。最近では灯籠をまちなかに飾って、まちを盛り上げていくことを実施されているということもご報告をいただきました。それらを一生懸命勉強されて、自らHPを運営されているというお話でした。

3つ目は捨てるのもったいないものを有効利



用するまちづくりというテーマで、NPO法人住まいまもりたいさんにお話をいただきました。これは、粗大ごみを外まで運べない方や分別できない方などいろんなことが地域の中で起こっていると。例えば、独居老人の方が亡くなられたり、老人ホームに入られる時に、それらのゴミを分別することによって、いろんな引き取り手がいたりとか、それが資源になったりだとかいうこともあり、そんな活動から輪を広げているそうです。また、もったいないサロンを経営し、そこでニートを受け入れ、働く先を提供するといった活動が広がっていった、町の人にこんなことをやってほしいなということを引き受けていく流れの中で、事業が拡大しているというご報告をいただきました。

次は、ITを使った活動ということでNPO法人HINTさんからご発表いただきました。実はITとはいろんなソフトがあって、発信していかないとなかなかいろんな出会いが出来ないという報告をいただきました。HPを持つことと同時に、ブログをやることで相乗効果が生まれるお話ですとか、動画も簡単に載せることが出来るというお話をされており、ちょうどITで悩んでいる団体の中間支援をしてくれる組織としていろんなお話をさせていただきました。

次に、みささぎナビということで、アスウェルの黒川さんと羽曳野市の観光協会さんにお話をいただきました。このグループのアスウェルの黒川さんは以前、「第5回関西西元気な地域づくり発表会（地域資源活用部門）」でも発表され、宣伝の方で管理をされている話をされていたのですが、その後、国土交通省の紹介もあって出会いもあり、こういったみささぎナビというところに着手することが出来たという報告をいただきました。スマートフォンを使って地域の情報を発信するという内容と同時に、お花が人の興味を引くということもあって花なびを付ける事によって、次の集客、情報発信を狙っているといったようなお話をいただきました。目指すはみささぎナビの中心になっている古墳群を世界遺産に登録して地域の活性化に繋げていきたいというお話をいただきました。

最後は羽曳野の白鳥伝説についてNPO法人羽曳が丘E&Lさんにお話をいただきました。E&LのEは“eco”で、Lは“life”。生活と自然について取組をされていて、ピオトープを作ったり、それを通じていろんな社会課題になっている老人の健康問題等に着手されたりしています。それをサポートする形で、大阪府立大学の看護学部の方々が一緒になって取組を行ったということ

で、地域の輪が広がり活動をされているようです。また、民間と行政が共に働くということの役割をしていることが大事で、今後そういう形を取っていく事が大事だというお話をいただきました。最後は、“BELIEVE”という癒しのある曲を聴いて終わるという分科会になりました。



朝廣氏

ありがとうございました。それではコミュニティ・防災減災部門の田端先生をお願いします。

田端氏

今回は5団体の方にお話をいただきました。それぞれみなさん当事者といいますか、課題を抱えそれらを解決するために集まったグループで、それが地域を巻き込みコミュニティを生かしていくといった活動に繋がっているというところがございます。

まず、NPO法人ハートフレンドさんですが、こちらは子育てに悩みを持つお母様方が中心となっており、一緒に遊べる場所、あるいは相談に乗ってくれる場所はないだろうか。場所がたまたまあったのですが、取り壊される建物を行政に頼み込んで譲り受け、そこを拠点に活動を開始しました。その拠点がやがて、子どもだけでなく高齢者の方の拠点となり、地域の拠点となっていくといったような過程をご説明いただきました。中



には子どもたちの遊びだけでなく学習支援、学校の教養をしてくれるといったいろんな過程が語られておりました。



次は、今年ゆめづくりまちづくり賞を受賞されました、大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル SmileSmile さんです。ここでは、子どもさんがアレルギーをもっておられるお父さんお母さんの集まりからスタートしました。アレルギーが問題になっているのはみなさん知っていると思いますが、自分たちはどのようなことを目標にしていけばいいのか、といったところからスタートしていきました。まず治すことあるいは、社会に適應するよというところからのスタートです。ある意味、自分たちの子どもが社会に受け入れられるよというところからスタートするのですが、それだけではなく、当事者だけでなく、一般市民の方や多くの方が関わっていただくよな活動に変えていく。なぜかという、これよって社会が変わっていく、アレルギーを持っている人が普通に暮らせるよに、その人たちが社会に適應するのではなく、社会がその人たちを受け入れられるよに活動を変化させていくよといった活動をご説明いただきました。

3番目は、地域に根差したさまざまなコミュニティ作りとしてK-stille さまです。地域における総合型スポーツクラブよいうことで、ボランティアとして10年ほど前に始まりました。子どもたちは、自分たちで何かスポーツをしたいが、大人がみな経験者よいうわけではないので、高校生が中学生を教える、中学生が小学生を教えるよいう形で始まったようです。目標は非常に高く、強いチームを作りたいようですが、よう簡単に行くものでもなく、ようした中でどうしたらいいかよいうことでスポーツの幅を広げる。最初はバレーからはじまり、バスケットボールなどに広げていき、あるいは女子プロ野球の方に来ていただいて教えていただいたりと、ようしたことができる。ようすると親子で試合が出来るだとか、親子の中で

も波及効果が生まれてくると。そして、今ではMs前広場よいうて、もっと小さいお子さんの要望に應えるよにもなっている。地域のスポーツとして家族間のつながりを意識させていくよいうことが話の流れでした。

次が、パパの育児休業支援センターさんのお話です。発表者の古山さんは看護師で、パパになられました。育児休業を取りたいようですが、忙しいのでそれは待ってよいわれた。これは特殊な例ではないよいうことで調べてみると、育児休業を取る男性の割合は極めて低いよいうことで、それはどうかよと思い活動を始められました。看護師の立場から育休を取れるよようにしたいよいうことから始められたわけですが、その中に地域の方々にいろいろと活動支援を求めていくわけです。例えば、神社やあるいは保健所にも協力いただいて、乳幼児健診に来られるお父さんお母さんにパンフレットを配ってようよいうことで啓発活動を行う。誰もが育休を取れる社会を目指すよいうところよ。そのためには、市民の側も当たり前に取りれるんだよ、それは決して不利なことではないのだよよいう理解。また企業もこれは法律で定められているよいうことでよって、それを阻害することはできないことを理解するよいうことの重要性を主張されていました。

最後は龍谷大学門前町サークルさんです。西本願寺の門前町活性化に取組むサークルです。本来門前町とお寺は密接な関係がありますが、西本願寺については、戦時中の道路拡張によて、その関係が絶たれてしまった。門前町には人的、物的、技術的資源があるよいうことを発掘してアピールしてよきたい。学生らしいアピールです。例えば、面白いよと思ったのはリンゴを使って風鈴をつくるよとか、おりんちゃんよいうマスコットキャラクターを作ったりしてよいます。オーソドックスなまちづくりではありますよ、学生が学生らしい視点で新しいものをアピールして行くよいうところがみなさん新鮮に思われたようです。



朝廣氏

ありがとうございました。私の方から、感想を述べさせていただきます。私は3カ所すべてを見られませんでした。どの団体もコンセプトが明確でみなさんプライドを持っておられるなど、プレゼンテーションが上手だなと思いました。プレゼンがうまいということは、それだけ自分の事業をものにしている。それだけご苦労されているから、詳細に上手に喋れる。自信をもって表現できるんだと感じました。聞くとすぐそれを自分のところでやりたいとなった時に、どうぞやって下さいというようなやりとりがありました。そういった柔軟性がどんどん地域を大きくしていくというポイントではないかと思えます。また、いろんな分野でこれだけしっかりした事業をされていると、子どもであったり、高齢化であったりあるいはニートの方など、色々な世代の人のたちのために、まちづくりを行っているのは素晴らしいことだと思います。



発表者

我々も男性が参加して欲しいと考えているのですが、どうやってパパを集めているのですか？

発表者

例えばSNSを活用したりしています。具体的には、育メンパパのコミュニティがありまして、そこでイベントの告知を行っております。同じ質問を分科会でもされましたが、私の場合看護師なので健康講座を開催した時、健康な人ではなく我々は不健康な人をターゲットにしているのですが、健康で健康に意欲のある方が来られます。こういう前提があって、私の活動は育児休暇がほしいといったところですが、お父さんにも3段階あ

ると思うのです。育児休業も考えられない会社パパ、育児には参加したい育メンパパ、育児休業を取得したい育休パパです。いきなり会社パパさんが育休を取ることは難しいので、我々のターゲットは育メンパパで、いかに育休パパに変えるかです。先ほどの話に戻りますが、健康講座の場合、不健康な人を呼び込みたいのですが、呼び込むことはできない。しかし、育休パパの場合、育メンパパに来てもらったらいいんです。本当だったら、会社パパに来てほしいんじゃなくて、育メンパパに来ていただき、育休パパに変わってもらえばいいんです。もしそうだとすると、アプローチの仕方があって、例えば、私自身も子どもが生まれて、一か月検診、三か月検診、役所の検診に参加した時に、たいていはお母さんと一緒に来られるのですが、私のように夫婦で来られているお父さんも参加されている場合もあるので、そのお父さんにアプローチをしていけばいいだろうと。具体的には、市役所の福祉課、乳幼児健診をしている保健師さんなどにチラシを渡して、ご興味のある方にご案内していただくというアプローチをしておりました。

朝廣氏

田中さんは先ほどメディアに取り上げられる方法を確立したと言っていたので、披露して頂きたいのですが。

発表者

ものすごく商売ネタなんですがね。半分ほとんど半分嘘なのですが、正しく自分たちのやりたいことを、ちゃんと伝える術を持っていれば、それをちゃんとネタを書けばいいんです。我々は、地域のことに関心のある新聞、大阪版だったり、小さいニュースの枠があるのですが、そこをターゲットにしています。そこは地域コミュニティについてみなさん興味をもっています。不景気なページではなく、ホッとできるページがほしいことは記者さん、また読者も望んでいます。そういう所をちゃんと出す側がそれを把握して出せばということで、僕たちは、地域のおじいちゃんおばあちゃんと地域の子もたちがお化け屋敷を作ったとなるとターゲット層が広いし、面白そうということで取材に来ていただけますし、事前に記事を書いていただくこともあります。



朝廣氏

ありがとうございます。最後に3先生からまちづくりのキーワードをつけていただきたいと思います。

大谷氏

我々は観光に関心を持っています。観光でお金が動くことはあるのですが、究極のところ良くある話ですが、人を求めて人が移動すると。みなさんは観光客に「見える」活動をやっていかれるといいのではないかと思います。

横山氏

地域活動でそれぞれが地域課題にまともに取り組んでいるということで、今回8回目ですが、地域活動はこんなにも進化している。悩みの部分もすごくレベルが高いというか、そこらの企業が考えるより、知恵出して考えておられると思う。みなさん今回知り合った方々と会話してもレベルアップできるし、もっと内容が充実するのではと実感している。みなさん交流を図っていただければと思います。

田端氏

これは国交省がやっているものか、厚労省がやっているのではないかと思われるのじゃないかと思います。それだけハードじゃなくソフトだと。今は物を維持するということで、人が中心であればますます発達していきます。人は生涯発達していく、人が知り合いとなれば、町も発達していく。これが今日のみなさんの議論の方向ではないかと思います。

朝廣氏

御三方ありがとうございました。身近な問題からいかに問題を解決していくことが重要か勉強できました。最後に、観光とは地域に光を当てることだと思います。それぞれの地域に光をあてて、光るものが魅力的なものになっていく、それが地域づくりかと改めて思いました。

